

4 飯議第 143 号
令和 4 年 11 月 18 日

飯田市長 佐藤 健 様

飯田市議会議長 井坪 隆



リニア駅周辺整備事業 土木実施設計に対する政策提言

日頃より、本市議会の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

リニア駅周辺整備については、オンライン報告会や意見交換会を開催するとともに、市民との情報共有を図り、多様な意見聴取にご尽力を頂いていることに対し、敬意を表する次第です。

この間、本市議会では、リニア推進特別委員会を中心に、リニア駅周辺整備事業に関わる土木実施設計について、調査・研究を行い、リニアデザインノートを基本としながらも、様々な視点から議論を重ねてきているところです。

このたび、市民から出されている様々な意見等を踏まえ、将来に禍根を残さない事業となることを願い、市議会として政策提言をすることといたしました。

今後、リニア駅を中心に新たな空間が形成されていくことから、先行して着手するリニア駅周辺整備は極めて重要で、今、まさに「まちとしての品格」が問われています。リニア駅の利用者や市民にとって、魅力的で且つ機能的であることに加え、駅を出た瞬間から信州・伊那谷らしさを感じられるランドスケープへの配慮や、より一層の経済効果につながる利便性の高い整備が望まれます。

つきましては、これまでの経過を踏まえ、リニア駅から伊那谷全域に「いざなう」ための第一歩として、基礎となる土木実施設計に伴い、別添のとおり提言をいたしますので、事業の円滑化に向け、格段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

提言1 ランドスケープについて（駅から降り立った際の景観の見え方など）

（景観イメージの可視化）

- 「何を・どこから・どのように見せたいか」を明確にした上での可視化シミュレーションが必要であり、XRその他の最新のデジタル技術を活用するなど、より具体的なイメージを広報することに取り組まれない。

（景観と大屋根の関係性と、標高の議論と俯瞰スポットの考え方）

- 南アルプスや伊那山地は南信州を代表する重要な景観資源だと考える。ただし、駅を降りてすぐ目の前に広がる南アルプスや伊那山地が見える画角と仰角は限定されているため、大屋根の配置や在り方を再検証し、地域が誇れるランドスケープデザインの創出を検討されたい。

- 専門家の知見と民間感覚を融合させる取り組みが必要である。

提言2 グリーンインフラについて（土曾川など）

- 駅前広場に隣接する土曾川を積極的に取り込む景観づくりを視点に入れながら、土曾川の治水についてこれまで以上に雨水排水、堤防の強靱化など国・県と共に機能担保を図られたい。

- 総合治水の観点からグリーンインフラは重要となるが、排水・導入樹種・持続性・維持管理などを総合的に設計しないと意図しない不具合が発生する可能性がある。利用者と維持管理側の双方に快適でストレスにならない設計に配慮されたい。

提言3 リニア駅とのアクセスについて

- 各方面とのアクセスについて、周辺（幹線）道路の整備は広域的な視点が重要となる。国・県、また関係自治体とも緊密に連携をされたい。

- リニア駅と在来線（JR 飯田駅・JR 元善光寺駅）をつなぐ手法については引き続き議論・検討が必要である。ハブ機能も大切であるが、立ち止まり効果（経済効果）等適時的確に検討し、情報開示を実施されたい。

提言4 庁内横断的な組織体制の構築について

- リニア駅周辺整備事業をはじめとした関連事業等については、リニア推進部以外の部署が参加した全庁的な取り組みとなっていないため、全庁挙げて関連する部署が横断的に取り組める体制を早急に構築されたい。

提言5 リニア効果の最大化を目指すための市民意識の醸成について

○土木実施設計により事業が具体的に進む段階に至り、「リニアを使って、このようにしたい」という市民の意識がまだ高まっているとはいえないため、市民挙げての意識を醸成する方法を検討されたい。

提言6 リニア駅周辺整備事業における地元との協議について

○事業の進捗にあたっては、駅設置の地元の声に真摯に向き合われたい。